

3.18 国際推進部門

部門長 横山隆裕

【部門概要】

(1) 研究開発環境のグローバル化、国際標準化等を推進し、国際競争力強化に貢献

経済・社会のグローバル化に伴い、情報通信技術の研究開発及びその成果の展開という観点においてもこれまで以上に国際戦略が重要視されてきている。

国際推進部門では、NICTの研究開発における国際交流や研究成果の国際的な展開を推進するとともに、産業界・大学等における国際共同研究や国際的な人材交流等も支援するなど、我が国の情報通信技術の研究開発環境のグローバル化を目指した取組を行っている。また、研究成果の社会還元・国際展開という面で非常に重要な要素となる国際標準化についても産業界等と連携して効果的な取組を推進している。このような研究開発環境のグローバル化及び国際標準化の推進を通じて、我が国の情報通信技術分野における国際競争力の強化に貢献している。

(2) 国際推進部門の構成

当部門の業務は、次の3室及び3ヵ所の海外連携センターにより実施しており、その業務概要は以下のとおりである。

① 国際研究推進室

国内の研究機関を受入機関とする海外研究者の招へい、国際研究集会開催の支援、外国為替及び外国貿易法(外為法)に基づく安全保障輸出管理業務

② 国際連携推進室

NICTと諸外国の関連研究機関との国際共同研究・研究協力の推進、研究協力覚書(MOU)の締結、複数の研究所等が関わるワークショップ及び国際会議の主催あるいは共催、MOUに基づくインターンシップ研修員のNICTへの受入れの募集、選定、海外のICT分野の研究開発動向や世界的な技術トレンド、ICT政策等についての調査

③ 標準化推進室

国内外の標準化関連機関との連携、及びそれらの活動状況の収集並びに研究現場への提供、標準化会議で活躍できる人材の育成、国内の関係機関との連携による国際標準化会合の日本への招致、研究現場のフォーラム活動等の標準化活動支援

④ 海外連携センター(アジア連携センター、北米連携センター、欧州連携センター)

各地域における研究開発等に係る情報の収集、研究連携のための企画、推進、支援及び関係機関との連絡調整、国際標準化のための情報収集、推進及び支援

【主な記事】

(1) 国際R&Dアドバイザーの招へい

国立情報学研究所のアンリ・アンジェリノ客員教授を国際R&Dアドバイザーとして招へいし、平成26年度から開催している国際アドバイザー委員会委員候補者の選定、将来のMOU締結機関に関する情報、インターンシップ制度の拡充等に関して助言を得て国際連携の強化に努めた。

(2) 国際的な研究協力の推進

インペリアル・カレッジ・ロンドン セキュリティ科学技術研究所(ISST)、フランス国立情報学自動制御研究所(INRIA)、フィリピン科学技術省情報通信技術局(ICTO)等17機関と新たにMOUを締結し、国際研究連携を推進するとともに、NICTの研究成果の国際展開に積極的に取り組んだ。

(3) 情報交換の促進

ミャンマーのヤンゴン工科大学(TYU)、ヤンゴン・コンピュータ大学(UCSY)及びミャンマーコンピュータ連盟(MCF)、カンボジア郵便・電気通信・情報通信研究所(NIPTICT)、シンガポール国立情報通信研究院(IR)等との間でそれぞれ国際ワークショップを開催し研究交流を行った。また、東南アジアのMOU

締結機関が一堂に会する研究集会をバンコクで開催し、NICT と ASEAN 諸国の研究機関との更なる連携推進の方策について議論した。

(4) 国際的な人材交流

21 機関から 25 名のインターンシップ研修員を NICT の各研究所等に受け入れた。また、日本語教室の開催や各種資料の英語化など、NICT 内の外国人研究者の支援を行った。

(5) 海外研究者招へい

国際交流プログラム海外個別招へいにより 5 名、国際研究協力ジャパントラスト事業により 4 名の海外研究者を国内の大学等の研究機関に受け入れた。

(6) 国際研究集会

国際交流プログラムの国際研究集会支援として、国内で開催された 10 件の国際研究集会を支援した。

(7) 国際共同研究助成

大学等の行う国際共同研究への助成業務については平成 24 年度に終了したことから、評価委員会での事後評価結果の概要を NICT Web サイトで公表している。

(8) 安全保障輸出管理関連業務

安全保障輸出管理委員会を開催し、MOU 等で提供予定の技術及び締結相手先機関について、懸念の有無を確認した。

(9) 標準化の推進

ITU、APT 等の標準化機関の会合に参加し、NICT の研究成果の国際標準への反映を図るとともに研究現場に会合情報を提供した。また、ITU-T SG16 会合や APT AWG 会合の日本における共催や開催支援・展示、バンコクにおける APT/ITU Conformance & Interoperability Event への参加・出展などを通じ、NICT 発の国際標準の普及推進、国際展開に努めた。

(10) 海外連携センターの効率的・効果的な運営

海外連携センターにおいては、現地情報の随時収集の他、NICT 内の要望に基づき、最新の研究開発情報をグローバルな視点から収集・分析し、NICT 内関係者に対しフィードバックしている。平成 26 年度は、東南アジア諸国での電力・通信インフラ整備状況及び経済特区、第 5 世代移動通信 (5G) における周波数資源活用技術・動向、アクセス網インフラの動向、プライバシーに関する欧州プロジェクトの成果及び経過動向等について計画的に調査を実施し、研究開発活動を側面から支援した。

また、アジア連携センターにおいては、平成 27 年 1 月にバンコク市内のチュラロンコン大学に移転した際、事務所スペースの縮減等により経費を削減した。